

大賞

第22回 ふるさとイベント大賞 内閣総理大臣賞

刈谷万燈祭

【由来】

愛知県の無形民俗文化財に指定されている「万燈祭」は、刈谷市銀座にある秋葉社の祭礼で、江戸時代中期から二百有余年続く、火難防除と町内安全を祈願するお祭りです。

宝暦6年（1756年）に火伏せの神をまつる秋葉堂（現：秋葉社）が建立され、その翌年から祭礼が行われました。安永7年（1778年）には笛や太鼓にあわせて「万燈（まんど）」が登場し、昭和の初期頃からは「万燈祭」と称され現在まで引き継がれています。

【万燈とは】

万燈は、竹と和紙で作られた張子人形を色鮮やかに彩色したもので、多くは歌舞伎絵や武者をかたどっています。大きなものは高さ約5メートル、幅約3メートル、重さは約60キロにもなり、これを若衆が一人ずつ交替で担ぎ、笛や太鼓のお囃子に合わせて舞い踊ります。各町の大万燈は、毎年新作が製作されます。何カ月も前から各町内の人々が製作に携わり、どれも力作揃いです。遠くから見ても、近くから見ても、迫力と緻密さを感じられます。

【お祭】

現在の祭礼は、7月最終土曜日と翌日の日曜日の2日間開催され、初日を「新楽（しんがく）」、2日目を「本楽（ほんがく）」と呼んでいます。新楽は、氏子7町（銀座、司町、新栄町、寺横町、東陽町、広小路、広小路五組）に加え、市内の企業や地区も参加し、十数基の大万燈と多数の子ども万燈が市内を練り歩き盛大に行われます。また、本楽では氏子7町の万燈が秋葉社の境内で舞を奉納する神前舞も披露されます。

氏子7町に加え、地域の住民と地元企業が連携し、総勢約2000人が祭りに参加しています。また、毎年、市内外から2日間でおよそ10万人の来場者があります。

県外のイベントにも出演しており、平成11年には「天皇陛下御即位十年をお祝いする国民祭典」、平成21年には「天皇陛下御即位二十年をお祝いする国民祭典」、平成29年1月には「ふるさと祭り東京」、平成29年5月には「'17食博覧会・大阪」に出演しました。

主催者メッセージ



日が沈み、色鮮やかな万燈に火が灯り、真夏の宵闇に浮かび上がる万燈が舞い踊る様は実に勇壮で、まさに天下の奇祭と呼ぶにふさわしいお祭りです。新楽に行われる「一斉舞」では、約20基の万燈が一堂に集まり華やかに行われ、本楽に行われる「神前舞」は、厳かに披露され、見る人の心を魅了します。

刈谷万燈保存会
会長

加藤 繁則さん

愛知県
刈谷市



開催DATA

| | |
|-------|---|
| 自治体名 | 愛知県刈谷市 |
| 自治体人口 | 約15万人 <small>※H29.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体 | 刈谷万燈保存会、刈谷市観光協会 |
| 開催回数 | — |
| 開催日 | 7月最終土曜日とその翌日 |
| 開催場所 | 刈谷市中心部（秋葉社周辺） |
| 観客数 | 118,000人（平成29年実績） |



評価のポイント

- 200年以上の歴史と伝統があり、天下の奇祭とよばれる独特な祭りである。
- 「万燈」とよばれる張子人形は竹と和紙で作られており、5メートルほどの大作を1人で担ぎ舞い踊るといった貴重で伝統的な祭りであり、町会ごとにも万燈が製作され、官民一体となって祭りを盛り上げている。
- 観客数は2日間で10万人以上と多くの人を魅了している。
- 市内の小学校で、万燈祭を教材で取り上げ、万燈祭の歴史を学ぶ機会を創出するなど、次世代への伝統文化継承に取り組んでいる点が評価できる。
- 「万燈」の製作を通じて、伝統技術を継承し、地域住民の連帯の強さを感じる。
- 氏子7町や地元企業も一体となって祭りを盛り上げている。
- 毎年新作が作られ、東京や大阪などへ出演し、市内外へも積極的に発信している。

次回 開催日程

- 開催日：平成30年7月28日（土）、29日（日） ■開催場所：刈谷市中心部（秋葉社周辺）
- 問い合わせ先：
 - ・団体名 刈谷市観光協会
 - ・住所 〒448-8501 愛知県刈谷市東陽町1丁目1番地
 - ・電話番号 0566-23-4100 ・URL <http://www.kariya-guide.com/>